

(当センター事務局が公表資料をもとに作成)

気象庁「気候変動監視レポート 2013」の概要について

- △ 2013 年の世界の年平均気温は、1891 年以降で 2 番目に高い値に、日本の年平均気温は 1898 年以降で 8 番目に高い値になりました。世界の年平均気温は 100 年当たり 0.69°C の割合で上昇、日本の年平均気温は 100 年当たり 1.14°C の割合で上昇しています。
- △ 全国で暑夏となり、西日本では夏平均気温が 1946 年以降最も高くなった。また、日最高気温の歴代全国 1 位となる 41.0°C が江川崎（高知県）で観測されました。一方で、北日本日本海側の所々では記録的な積雪となり、最深積雪の歴代全国 1 位となる 566 cm が酸ヶ湯（青森県）で観測されました。
- △ 世界の年平均気温について、最近 15 年程度の期間だけに着目してみると、横ばい傾向になっている（ハイエイタス）。その一方で、 CO_2 等の温室効果ガス濃度は上昇を続けていることから、両者の乖離理由に関する研究が盛んに行われています。昨年 9 月公表の「気候変動に関する政府間パネル」（IPCC）第 5 次評価報告書第 1 作業部会報告書では、世界平均気温の経年変化は、温暖化の傾向に加えて、かなりの大きさの自然変動を含んでおり、短期間の変化傾向は長期的な変化傾向を反映していない、と注意を喚起しています。
- △ その上で、ハイエイタスの主たる要因として、①火山噴火や 11 年周期の太陽活動の下降時期に重なったことから、温室効果ガス濃度増加による変化を部分的に打ち消したこと、②10 年規模の自然変動が温暖化を打ち消す方向に作用したこと。これは気候システムに蓄積されている熱が、海洋深層（水深 700m から海底まで）を含む海洋内部で再配分されているため、大気温度上昇として現れなかった可能性があること、を挙げ、この二つが概ね同程度に寄与していた、とされています。
- △ 気象庁は、綾里（岩手県大船渡市）、南鳥島（東京都小笠原村）、与那国島（沖縄県与那国町）において、大気中の CO_2 濃度を観測しています。このうち、綾里では 2012 年 3 月に 1987 年の観測開始以降初めて 400ppm を超える値を記録しました。13 年 4 月には、3 つの観測地点全てで 400ppm を超えました。また、国外においても、1958 年から観測を続けているハワイマウナロア観測所において、13 年 5 月に 400ppm を超えました。

以 上